

臨床研究に関する情報公開

＜人を対象とする医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

| |
|--|
| ＜研究課題名＞ 敗血症患者の血糖異常や栄養状態とアルブミン値が転帰に与える影響についての研究 |
| ＜研究機関・研究責任者名＞ 日本大学医学部附属板橋病院 救命救急センター科 (研究責任者) 山口 順子 |
| ＜研究期間＞ 承認日 ～ 西暦 2021 年 12 月 31 日 |
| ＜研究の目的と意義＞ 敗血症は重症な感染による全身の炎症状態であり、早期に重症であるかどうかを判定し、これに合わせた治療の開始が転帰改善に不可欠です。現在、主に国際的に使用されている 敗血症の基準と点数化する仕組みは煩雑で時間がかかるため、救急初期診療での重症度判断には使用しづらいのが現状です。敗血症管理において血糖管理が重要である事は敗血症診療ガイドラインでも明記されておりますが、時々血糖値の異常を伴う症例があり、その症例の転帰が不良である事が解っています。また低アルブミン血症がみられる患者さんの転帰が不良であることも示唆されており、日常の診療で簡便に測定できる血糖値やアルブミン値などから算出した敗血症重症度スコアを検討し、実際に迅速に敗血症の重症度評価ができるかどうかについて検討を行います。 また血糖値とアルブミン値に影響を与える耐糖能異常や患者さんの栄養状態を採血結果や、治療経過で撮影する画像診断などを利用し、共に評価する事でより重症度判定の精度が上がる他の因子を検索する事を目的としています。臨床現場で迅速で簡便に使用できる敗血症患者さんの重症度スコアを検討し、早期の治療ができるようになることを目指します。 |
| ＜利用する試料・情報の項目＞ 対象患者さんの診療録や入院台帳などから、患者背景(年齢・性別等)と血圧や呼吸数および血液検査結果を抽出します。また日頃より耐糖能異常があるのかどうかや、栄養状態について調査します |
| ＜対象となる患者さん＞ 西暦 2016 年 1 月 1 日～西暦 2019 年 12 月 31 日の期間に救命救急センターに入院され敗血症が疑われ治療を受けた患者さんです。*敗血症(はいけつしょう)敗血症とは、細菌によって引き起こされた全身性の炎症反応です。細菌感染症の全身に波及したもので非常に重篤な状態であり、多臓器不全などから生命に関わる病気です。 |
| ＜研究の方法＞ 日常の診療で簡便に測定できる血糖値やアルブミン値などから算出した敗血症重症度スコアを検討し、実際に迅速に敗血症の重症度評価ができるかどうかについて検討を行います。 また血糖値とアルブミン値に影響を与える耐糖能異常や栄養状態を採血結果や、治療経過で撮影する画像診断などを利用し、共に評価する事で血糖値や栄養状態の影響について検討します。 |

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1)

救命救急センター科 科長 氏名:山口 順子

電話:03-3972-8111 内線:(医局)2888 (PHS)8363

日本大学医学部附属板橋病院(ver.1705)